

平成24年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	大阪大学	整理番号	L02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ひらの としお 氏名・職名 平野 俊夫(大阪大学・学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) ほしの としや 氏名・職名 星野 俊也(大阪大学・副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) しみず こうきち 氏名・職名 志水 宏吉(人間科学研究科・人間科学専攻教授)		
4. 類型	L<複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム	
	英語名称	Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity, and Cultural Transformation	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、医学、看護学、保健学、工学、言語文化学、日本語・日本文化、国際公共政策、学術 付記する名称: 未来共生イノベーター博士課程プログラム		
7. 主要分科	(① 社会学 ) (② 教育学 ) (③ 政治学 ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	言語学、文化人類学、経営学、総合工学、社会医学		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
	社会学、教育学、国際関係論、外国語教育、文化人類学・民俗学、経営学、地球・資源システム工学、衛生学・公衆衛生学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科文化形態論専攻、文学研究科文化表現論専攻、人間科学研究科人間科学専攻、人間科学研究科グローバル人間学専攻、法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科経済学専攻、経済学研究科経営学系専攻、医学系研究科医学専攻、医学系研究科保健学専攻、工学研究科地球総合工学専攻、工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻、言語文化研究科言語文化専攻、言語文化研究科言語社会専攻、言語文化研究科日本語・日本文化専攻、国際公共政策研究科国際公共政策専攻、国際公共政策研究科比較公共政策専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:大阪大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:未来共生イノベーター博士課程プログラム )

14. プログラム担当者の構成		計	51	名			
外国人の人数	4	人	[ 7.8 % ]	女性の人数	9	人	[ 17.6 % ]
プログラム実施大学に属する者の割合		[ 88.2 % ]					
プログラム実施大学に属する者		45	人	プログラム実施大学以外に属する者		6	人
そのうち、他大学等を経験したことのある者		37	人	そのうち、大学等以外に属する者		5	人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 星野 俊也	ホシノ トシヤ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・副学長	国際関係論、国連研究、平和創造、平和構築・博士(国際公共政策)	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 志水 宏吉	シズミ コウキチ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	教育社会学・博士(教育学)	プログラム全般のマネジメント
平沢 安政	ヒラサワ ヤスマサ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	人件教育学、多文化教育、生涯教育学・教育学博士	プログラムの企画・運営
園山 大祐	ソノヤマ ダイスケ		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	教育制度学、比較国際教育学・修士(教育学)	プログラムの開発・運営
Yamamoto Beverley Anne	ヤマモト ベバリー アン		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	先端人間学、生涯教育、教育の国際化・Ph.D(東アジア研究)	プログラムの開発・改善
稲場 圭信	イナバ ケイシン		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	現代社会学、宗教社会学・Ph.D(宗教学)	プログラムの開発・運営
栗本 英世	クリモト エイセイ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	社会人類学・修士(文学)文学修士	プログラムの企画・運営
森田 敦郎	モリタ アツロウ		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	人類学、タイ研究・博士(学術)	プログラムの開発・運営
渥美 公秀	ワツミ トモヒデ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	ボランティア行動学・Ph.D(心理学)	プログラムの開発・運営
佐藤 眞一	サトウ シンイチ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	臨床死生学、老年行動学・博士(医学)	プログラムの開発・改善
中村 安秀	ナカムラ ヤスヒデ		人間科学研究科・グローバル人間学専攻・教授	国際保健学、公衆衛生学・博士(医学)	プログラムの企画・運営
澤村 信英	サカムラ ノブヒデ		人間科学研究科・グローバル人間学専攻・教授	国際教育開発論・博士(人間科学)	プログラムの開発・運営
Hawkins Virgil	ホーキンス ヴァージル		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・准教授	国際政治・博士(国際公共政策)	学生の履修支援と点検
河村 倫哉	カムラ ミチヤ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・准教授	多文化共生、市民社会論・修士(社会学)	プログラムの開発・運営
松野 明久	マツノ アキヒサ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・教授	紛争研究、平和構築・修士(文学)	学生の履修支援と点検
大槻 恒弘	オツキ ヒロヒロ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	開発経済学・Ph.D(農業資源経済学)	学生の履修支援と点検
植田 晃次	ウエダ コウジ		言語文化研究科・言語文化専攻・准教授	朝鮮語学、社会言語学・修士(文学)	プログラムの開発・運営
山下 仁	ヤマノ ヒトシ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	社会言語学・修士(文学)文学修士	プログラムの開発・運営

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
清水 政明	シミズ マサアキ		言語文化研究科・言語社会専攻・准教授	ベトナム語音韻史・修士(人間・環境学)	学生の履修支援と点検
鈴木 慎吾	スズキ シンゴ		言語文化研究科・言語社会専攻・講師	中国語音韻史・博士(言語文化学)	学生の履修支援と点検
上原 順一	ウエハラ ジュンイチ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	電子教材と外国語教育、ロシア語の語形成・修士(文学)	学生の履修支援と点検
筒井 佐代	ツツイ サヨ		言語文化研究科・日本語・日本文化専攻・教授	日本語教育学、会話分析・博士(言語文化)	プログラムの開発・改善
藪中 三十二	ヤブナカ ミツジ		国際公共政策研究科・特任教授 外務省顧問(前外務事務官)	外交政策	プログラムの企画・開発
橋爪 節也	ハシヅメ セツヤ		総合学術博物館・館長	日本東洋美術史・修士(芸術学)	プログラムの開発・改善
杉原 達	スギハラ トル		文学研究科・文化形態論専攻・教授	日本学、文化交流史・博士(経済学)	学生の履修支援と点検
福井 康太	フカイ コウタ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	法社会学、法政策学・博士(法学)	プログラムの企画・開発
長田 真里	ナガタ マリ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	国際私法、国際民事手続法・博士(法学)	学生の履修支援と点検
高山 正樹	タカヤマ マサキ		経済学研究科・経営学系専攻・教授	経済地理学・修士(文学)	プログラムの企画・開発
許 衛東	キョ エイトウ		経済学研究科・経営学系専攻・准教授	経済地理学、中国経済・修士(教育学)	学生の履修支援と点検
浦井 憲	ウライ ケン		経済学研究科・経済学専攻・教授	理論経済学・博士(経済学)	プログラムの開発・改善
磯 博康	イソ ヒロユキ		医学系研究科・医学専攻・教授	公衆衛生学・博士(医学)	プログラムの企画・開発
渡邊 浩子	ワタナベ ヒロコ		医学系研究科・保健学専攻・教授	臨床看護学・博士(保健学)	プログラムの企画・開発
松村 泰志	マツムラ ヤシ		医学系研究科・医学専攻・教授	医療情報学・博士(医学)	プログラムの企画・開発
伊藤 美樹子	イトウ ミキコ		医学系研究科・保健学専攻・准教授	地域看護学、保険社会学・博士(保健学)	プログラムの開発・改善
横田 隆司	ヨコタ タカシ		工学研究科・地球総合工学専攻・教授	建築計画、建築都市人間工学・博士(工学)	プログラムの企画・開発
倉敷 哲生	クラシキ テッセイ		工学研究科・ビジネスエンジニアリング専攻・准教授	信頼性工学、複合材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と点検
上西 啓介	ウエニシ ケイスケ		工学研究科・ビジネスエンジニアリング専攻・教授	マイクロナデバイス、電子デバイス・電子機器、電子・電気材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と点検
常田 夕美子	トキタ ユミコ		グローバルコラボレーションセンター・特任准教授	文化人類学、南アジア地域研究、ジェンダー研究、日本研究・博士(学術)	学生の履修支援と点検
吉富 志津代	ヨシトミ シツヨ		グローバルコラボレーションセンター・特任准教授	多文化共生、外国人自助組織、青少年育成、市民メディア、防災減災博士(人間・環境学)	プログラムの開発・改善



## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 無)	
プログラム募集定員数(実数)	人	15人	15人	15人	
① 応募学生数	人	34人	40人	33人	
	うち留学生数	人	5人	15人	8人
	うち自大学出身者数	人(人)	14人(0人)	17人(2人)	9人(1人)
	うち他大学出身者数	人(人)	20人(5人)	23人(13人)	24人(7人)
	うち社会人学生数	人(人)	11人(0人)	2人(0人)	3人(0人)
うち女性数	人(人)	17人(3人)	23人(11人)	17人(5人)	
② 合格者数	人	18人	18人	18人	
	うち留学生数	人	1人	4人	3人
	うち自大学出身者数	人(人)	7人(0人)	12人(2人)	6人(1人)
	うち他大学出身者数	人(人)	11人(1人)	6人(2人)	12人(2人)
	うち社会人学生数	人(人)	6人(0人)	1人(0人)	0人(0人)
うち女性数	人(人)	7人(0人)	8人(2人)	12人(3人)	
③ ②のうち受講学生数	人	17人	15人	15人	
	うち留学生数	人	1人	4人	3人
	うち自大学出身者数	人(人)	6人(0人)	9人(2人)	4人(1人)
	うち他大学出身者数	人(人)	11人(1人)	6人(2人)	11人(2人)
	うち社会人学生数	人(人)	5人(0人)	1人(0人)	0人(0人)
うち女性数	人(人)	7人(0人)	8人(2人)	11人(3人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	0.00倍	1.89倍	2.22倍	1.83倍	
充足率(合格者数/募集定員)	0.00%	120.00%	120.00%	120.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜		0				0						0						0						0		
うち留学生数		0				0						0						0						0		
うち自大学出身者数		0				0						0						0						0		
うち他大学出身者数		0				0						0						0						0		
うち社会人学生数		0				0						0						0						0		
うち女性数		0				0						0						0						0		
平成25年度選抜							17					17	17					17	3	8				11		
うち留学生数							1					1	1					1		1				1		
うち自大学出身者数							6					6	6					6	1	1				2		
うち他大学出身者数							11					11	11					11	2	7				9		
うち社会人学生数							5					5	5					5	3	2				5		
うち女性数							7					7	7					7	2	2				4		
平成26年度選抜													14					14	14					14		
うち留学生数													3					3	3					3		
うち自大学出身者数													9					9	9					9		
うち他大学出身者数													5					5	5					5		
うち社会人学生数													1					1	1					1		
うち女性数													7					7	7					7		
平成27年度選抜																			14					14		
うち留学生数																			2					2		
うち自大学出身者数																			4					4		
うち他大学出身者数																			10					10		
うち社会人学生数																			0					0		
うち女性数																			10					10		
計	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	17	14	17	0	0	0	31	14	17	8	0	0	39		
修了者数																										
就職者数																										
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜		0			0					0					0					0		
	うち留学生数	0			0					0					0					0		
	うち自大学出身者数	0			0					0					0					0		
	うち他大学出身者数	0			0					0					0					0		
	うち社会人学生数	0			0					0					0					0		
	うち女性数	0			0					0					0					0		
平成25年度選抜						0				0					0					0		
	うち留学生数					0				0					0					0		
	うち自大学出身者数					0				0					0					0		
	うち他大学出身者数					0				0					0					0		
	うち社会人学生数					0				0					0					0		
	うち女性数					0				0					0					0		
平成26年度選抜											1				1		1			1		
	うち留学生数										1				1		1			1		
	うち自大学出身者数										0				0		0			0		
	うち他大学出身者数										1				1		1			1		
	うち社会人学生数										0				0		0			0		
	うち女性数										1				1		1			1		
平成27年度選抜																1				1		
	うち留学生数															1				1		
	うち自大学出身者数															0				0		
	うち他大学出身者数															1				1		
	うち社会人学生数															0				0		
	うち女性数															1				1		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 【概要】

本プログラムは、総長のリーダーシップのもと、多文化共生に関係する部局を横断した大阪大学の知的リソースと幅広い産学官との連携とを総合して、次世代をリードする若手研究者・実践家が、各自のコアとなる高度で先端的な専攻別の博士学位研究を高めると同時に、グローバル化の進む今日の世界の中で、俯瞰的・独創的な観点と他者に対する深い理解に基づく敬意(respect)に立脚し、多様で異なる背景や属性を有する人々が互いを高め合い、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できるダイナミックな知識・技能・態度・行動力を持つ、いわば「未来共生イノベーター」となるべき人材の養成を目指す。本事業を「RESPECT (Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity and Cultural Transformation) プロジェクト」と称する所以である。さらに、本プログラムでは、人々が、未来志向で、互いに幸福を分かち合える共生社会への変革の道筋をダイナミックに研究する新たな学問体系としての「未来共生学」という学際複合的な学問領域の創成を目指す。

地球規模での相互結合性の拡大や情報通信技術の発展、国境を越える人口移動は、グローバルなレベルでの異文化間の接触を確実に加速化させ、また、今後のデモグラフィック・バランスの遷移(たとえば、アジアの少子高齢化やアフリカの若年層人口の膨張など)や民族構成の変化は、国内ないしローカルなコミュニティの多文化性に大きく影響することになる。多文化共生の推進は、日常の生活(医療現場や都市計画を含む)のなかはもとより、大規模災害や紛争や差別や人権抑圧といった危機的な事態への取り組みや、危機からの復興・和解・平和構築の過程では極めて重要な課題といえる。こうした中、専門分野における先端的なクオリティの高い研究能力に加え、人々が国籍、民族、言語、宗教、性差、世代差、病・障害歴等を含む、人々のアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、よりよい未来の共生社会の形成への変革をリードする力量(知識・技能・態度・行動力)を備えた人材の育成は急務といえる。

### 【特色】

本プログラムでは、選り抜かれた大学院生が、5年一貫で、本来の専門分野における質の高い博士の学位研究に並行して「未来共生イノベータープログラム」を学修する、実質的な「ダブル・メジャー」教育を行う。広く定義された「多文化性」の相互尊重の多角的な研究に取り組む修了者は、研ぎ澄まされた「多文化コンピテンシー」を持つリーダーとして、多文化共生分野の最先端の研究者はもとより、人文・社会科学・医学・工学等の各分野の研究者や、日本を含む各国の政府・議会、地方自治体、国際機関、グローバル企業、メディア、学校教育、国際協力機関、NGO等で、俯瞰的・独創的立場から「未来共生」をリードする役割が期待される。

履修学生は、総長直轄の大阪大学未来戦略機構のもとに新設される第五部門に所属し、特別に編成された「アカデミックワーク」、「プラクティカルワーク」、「リサーチワーク」の3本立てのカリキュラムを通じ、「多文化コンピテンシー」を構成する6つのリテラシー(多言語、フィールド、グローバル、調査、政策、コミュニケーション)を涵養する。各個人に対しては、研究テーマに合わせ、研究科の枠を超えた論文指導体制を組み、複数言語の運用能力の修得、海外インターンシップや国内フィールドワーク、文理横断のプロジェクト型ラーニングなどが課される。さらに、学生生活面では、留学生と日本人学生がペアになる「バディ制」や学年を超えて学生同士が相互に学び合う「ハウス制」を導入する。

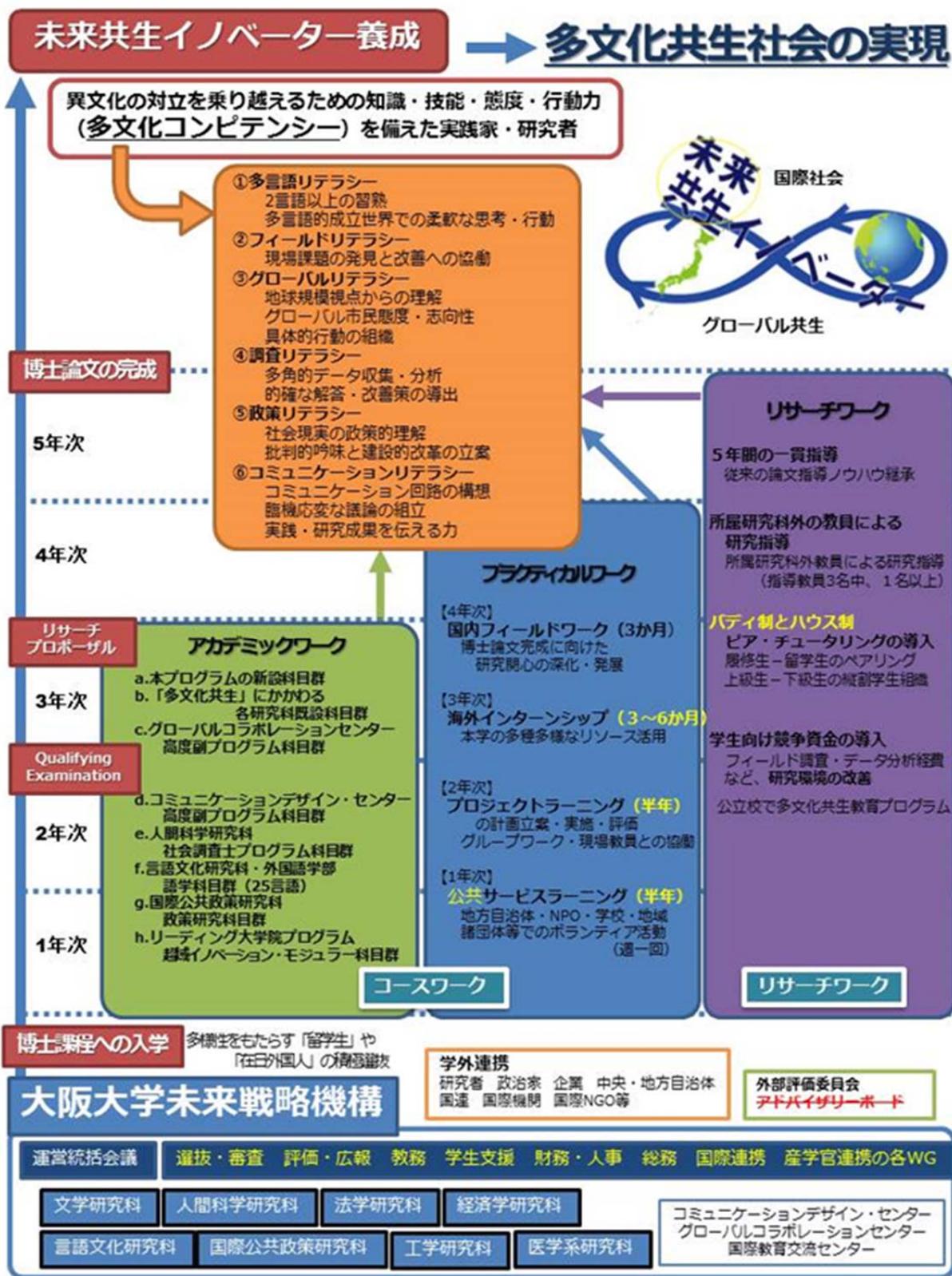
本事業を通じて特に解決すべき課題としては、日本と世界におけるマイノリティ問題への対応、紛争解決・和解・平和構築の促進、災害などの危機における多文化・多言語対応、グローバルな健康医療・公衆衛生分野の革新、多文化配慮のウェルネス重視のまちづくりの促進などが含まれる。

### 【優位性】

大阪大学では、人間科学研究科(人類学、教育学、社会学、心理学、地域研究)、国際公共政策研究科(国際政治・法・経済学を統合した国際公共政策学)、言語文化研究科(言語学、外国文化研究、及び旧大阪外国語大学のリソースによる25言語教育)を中心に、各研究科の持ち味を生かした多文化共生分野の多様な研究実績があり、人材を輩出している。大阪という立地に由来する人権教育や外国人政策の研究、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害時の多文化・多言語対応の研究や実践から、世界各地の紛争や和解の分析や復興・平和構築、開発支援の政策研究等まで、現場重視・人間重視の実績がある。加えて本学には、部局横断の全学教育推進機構による教育サポート体制(体験型学習、海外留学支援、コミュニケーション・デザイン科目等の提供)があり、さらに、稲盛財団寄附講座に代表される多くの外部団体からの寄附講座の導入実績がある。これらは「未来共生イノベーション」事業のスタート時点で基盤的な優位性があることを示しており、今回、総長のリーダーシップのもと、未来戦略機構の一部門として、医学系・工学の両理系部局や法・文・経の文系部局、附属病院と総合学術博物館という学内施設からのインプットを統合し、さらに学外からも「未来共生イノベーター」育成と「未来共生学」の創設という趣旨に賛同する産官学の有識者・実務者・機関のネットワークを通じた協力体制が可能となった。以上から、本学には本事業の運営・実施と学生のキャリアパス支援及び補助期間終了後の継続体制も含め、明らかな優位性があると確信する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	L02
プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム		
プログラム責任者	星野 俊也	プログラム コーディネーター	志水 宏吉

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 【総括評価】

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### 【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、リーダーが持つべき対応力を養うべく用意されている各種のフィールドワークが、いずれも良く準備がなされ、充実している点は評価できるが、養成すべき未来共生イノベーターの理念や人材像は明らかとは言い難く、より一層の明確化が望まれる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、分野の特徴として、容易にキャリアパスにつながらないことは理解できるものの、将来の具体的な構想ができていない学生や、キャリアパスに不安を持つ学生が多数見受けられることから、学生に対するサポートについて更なる努力が求められる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、ローカルな場面での多文化共生の問題を中心に教育がなされているが、具体的かつ深みのある問題を素材として取り上げ表面的な実習にとどまらない指導が行われており、計画を超えた成果が期待できる。

優秀な学生の獲得については、応募者数が多く、分野の偏りもないため、計画どおりにできていると判断できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、問題点の指摘に迅速に対応して教育プログラムの充実・改善が図られているほか、英語の習得能力を確実に評価する方法も整備していると判断できる。

事業の定着・発展については、人間科学研究科改組に伴い、人間科学専攻に新たに開設される共生学系にて主専攻として継続するとのことであるが、具体的な中身が明瞭でない。副専攻としての意義は大いに認められる一方、主専攻としての共生学の意義や中身が十分検討されていないため、今後一層の努力が求められる。

総評として、高く評価できる点もある一方、改善すべき点もあることから、今後の努力が求められる。